TAKE FREE

MA・SO・BO通信 2022 1▶2

［寄稿］

「今だからこそ、遊びや環境を通した豊かな感性育てを」

札幌国際大学短期大学部 学長　平野　良明

ギリシャ３大哲学者の一人で教育学の祖とされるプラトンも、その著『ポリテイア』に「子どもは遊んで育つ」と記しています。今日まで、どの時代も、どの地でも子ども達は遊んで育ってきたのです。

人類は歴史を重ね、学問研究や科学の進歩の中で、私たちを取り巻く育ちの環境は変化し続けています。我が国においても、子ども達の「その時にしか育たない人としての基本」育てについて、そのための環境要因とも言われる、３間（時間・空間・仲間）は、失われてきたと言われてもう、約40年以上になります。

ふと、団塊世代である私の子どもの頃の生活を思い出します。円山小学校の１年生になると急に世界が拡がりました。1954年頃です。近所のガキ大将の元でのパッチ、ビー玉、釘刺し、缶蹴り、三角ベース、廃材遊びの他に、同級生との遊びが加わったのです。学校帰りに約束をして島判官前やラジオ塔前や坂下グランドに集合しての季節による多様な遊び、3･4年生になると自転車の後部席にバットを差し、グローブを引っかけての野球が中心になりました。円山公園、神宮（当時は神社だったかも）、動物園（園長がわきの入り口から入れて下さった）、さらに、荒井山から尾根伝いに大倉山・・・冬はスキー板をつけて駆け回ったものです。虫やリスや蛇は遊び相手で、季節の植物は時に美味しいおやつでもありました。酸っぱめのブドウも、甘いコクワも、指先を茶色に染めながら拾った釘で実を掘りながら食べたクルミの味も忘れられません。

どの季節にも夕方の５時か６時になるとラジオ塔のスピーカーから時計台の鐘の音か、折々の音楽が流れ、帰りの時刻を告げてくれました。日の暮れる時刻が早くなる季節には円山に帰ってくるカラスの声の方がラジオ塔のスピーカーから聴こえる音楽より早くなり、私たちは「カラスが鳴くからかぁ～ぇろ・・・」と唱和しながら集まって、帰途についたものでした。
時間がたっぷりあって、自然豊かな空間があって、近隣の友だち、クラスの友だち、即ち仲間がいつもそばにいた時代のことです。

そして私たちが高校受験、大学受験をする頃には受験戦争が始まり、「雪よけなんかしなくていいから、勉強しなさい」と雪よけの手伝いをする時間を惜しんで勉強しなさい、という親が出現する時代を迎えたのでした。教育ママが増えた時代でもありました。

翻（ひるがえ）って今、子ども達を取り巻く生活環境、文化環境は課題と共にあります。いじめや不登校を始めとする教育病理や社会病理が一人一人の子どもの生活のそばにあります。学力低下や生活力の低下は色々な観点からすでに指摘され続けています。

脳科学からの発信、ゲーム脳、スマホ脳など、次々に出版される関連書物（注-１）を手に取り、私たちは悩みを重ねます。
子ども達の幸福な未来のために、教育や文化環境が今の子ども達に与えなければならない生活を想い描き、語り合い、大人としてすべきこと、できることをしていきたいと願い、取り組んでいるのです。

世界の教育の潮流はSDGs、Society5.0、OECD Education2030の学びの羅針盤を背景に子どもたち一人一人の幸福を求めています。これらを踏まえて我が国は「令和の日本型学校教育の構築」を掲げ、「個別・最適で協働的な学び」を目指します。次代に生きていく子ども達の教育はGIGAスクール構想下で取り組みが進み、小学校においても情報端末が一人一台の時代を迎えました。

スマホやゲームやYouTube等が、どの子にも身近なものとなってしまうなかで、幼少期からの自然体験が学力や道徳性との高い相関を示していることも公表されています。自然や環境を通した遊び、体験の必要性が強く求められているのです。

私は今、哲学者、中村雄二郎が1975年に著した「感性の覚醒」（注-２）を改めて読み直しています。人の、動物としての感性の育ちが阻害されることによる人類の衰退を案ずる書です。

私たちは改めて、自然や環境を通した遊びや伝統的な児童文化に価値を認め、これによって「人の本質」育てを見失うことなく、感性を耕すことの重要性を語り継ぎながら子ども達の伴走者としてあり続けることを目指さなければなりません。

(注-1)「生きなおす力」2011・新潮文庫・柳田邦夫
「LINEで子どもがバカになる」2016・講談社新書・矢野耕平
「スマホ廃人」2017・文春新書・石川結貴
「スマホ脳」2020・新潮新書・アンデシュ・ハンセン久山葉子訳　など（注-２）「感性の覚醒」岩波書店

平野　良明

略歴

1948年　美唄生まれ札幌出身。東京学芸大学・同大学院（教育哲学）修了後　76年東京都小金井市立緑小学校教諭78年現在の札幌国際大学の前身、静修短期大学に赴任。助手・講師・助教授・93年教授。97年校名変更により札幌国際大学短期大学部教授。2002札幌国際大学付属幼稚園長（兼務）。08年人文学部教授、総合情報館図書館長（兼務）。18年短期大学部学長。公職／北海道幼稚園教諭養成校協会会長を経て現在理事。北海道教育委員会幼児教育推進センタースーパーバイザー他。著書／『幼児教育の原理』（同文書院・共著）2018、『新道徳教育全集』第３巻第３章「幼児教育・保育機関における豊かな体験による道徳性の育成」（学文社・共著）2021、他。

「私に創る喜びを育んだ中島児童会館４」～「劇団さっぽろ」誕生と日曜子ども劇場～ 鈴木　喜三夫

「うぬぼれ兎」の成功は私に力を与えた。これからは故郷で演劇の仕事をやっていこう。しかも現在は北海道にはない、専門劇団を創設しよう。岩花達夫たちも乗り気だ。この大それた計画は、反対・時期尚早の声がほとんどだったが、意欲に燃える私や若者たちには通じない。

1959 年 4 月、「劇団さっぽろ」は誕生した。58 年 11 月「うぬぼれ兎」上演からたった 4 ヵ月後である。その 20 日後には第 1 回公演にあたる『はだかの王様』（アンデルセン童話・鈴木脚本）が中島児童会館で上演された。当然、稽古や準備不足でいい舞台が出来るはずもない。大失敗である。

巷で噂された「3 ヵ月で潰れる」という事が現実となり、中心の役者夫婦が何人かの若者を連れて去った上に、私の片腕である岩花が東京で勉強したいと退団した。

その役者がその後、新聞に「北海道には長い冬がある、いい指導者がいない、だから専門劇団は育たない。」と書く。私は悔しかった。「それなら、その北海道で専門劇団を育てて見せる！」

という訳で、残された者たちの厳しい戦いが始まった。私の中学時代の恩師・笠井忠郎先生が経営する「札幌美術学園」を稽古場として借りていたので、併設する幼稚園の行事にも積極的に参加。団員全員でアルバイト（本の発送、行事の受付など）をしたり、舞踊団体の舞台装置づくりに取り組んだ。もちろん、さまざまな団体の裏方、出演にも。琴の会のバイトでは、豪華な弁当が楽しみだった。

第２、３回の試演公演（本公演という形ではない勉強会）を中島児童会館で重ね、第４回で初めて市内の自治会館（現ポールスター）で私の創作劇『ある音の恐怖』ともう１作を 60 年１月に上演。

毎日続く稽古のため稽古場を「美術学園」から中島児童会館へ移したのも、その頃である。多分その当時の館長・竹内憲治さんの個人的な好意だったに違いない。私たちはその新しい稽古場で、学校公演のために『夕鶴』（木下順二作）やコメディ芝居を作って、いくつかの中・高校で上演した。

さらに竹内さんへのお礼の気持ちもあり、毎月１回「日曜子ども劇場」を設定、国内外の児童劇を会館ホールで子どもたちに見せることにしたのである。冒頭の舞台写真はその中の一つ『パロンの森』（シェクスピアーの『ベニスの商人』を子ども用にした芝居）。私たちは１作づつ担当を決め、13 の児童劇を演じた。この経験が団員の演技や芝居づくりの力を少しづつ向上させたのは間違いないだろう。

suzuki　kimio
鈴木　喜三夫

PROFILE

一九三一年・札幌生まれ。札幌北高から東京・玉川学園大学へ入学。五六年中退してテレビ作家で活動後、札幌へ帰り五九年専門劇団「さっぽろ」創設。八六年フリー演出家、二〇〇九年「座・れら」を結成、現在に至る。九四年北海道文化奨励賞、〇七年北海道文化賞受賞。〇四年「北海道演劇 1945－2000」（北海道新聞社）上梓。

MA・SO・BO
本　シェルジュ

今野　道裕
國學院大學北海道短期大学部
幼児・児童教育学科
幼児保育コース　教授

PROFILE

1955 年生まれ
高校時代より人形劇活動を始める小学校教員 28 年を経て 2006 年～市立名寄短期大学教授 2021 年～國學院大學北海道短期 大学部教授
北海道人形劇協会理事
芸術と遊び創造協会会員
日本福祉文化学会会員
北海道教育学会会員
北海道芸術教育の会
ひとり人形劇団「オホーツク風雲ワクワク団 n」として活動中
著作：『作ってあそべる製作ずかん～3・4・5 歳児の保育に～』（学研・2013 年 12 月）

本の紹介⑨『手づくり絵本 楽しみ方作り方考え方』（北草文化 川幸比古 他）

「手づくり絵本」を作っています。もう 50 冊になろうとしています。どれも「世界に一つだけの絵本」です。作り方は自由、大きさも、内容も、方法も。絵が苦手なら写真を貼って作れば良い。色紙を貼り付けて見るのも楽しいですよ。

物語が思いつかなくても大丈夫。「カレーライスの作り方」とか、「順序」を絵本にしてみましょう。ものを作るって、それだけでもうドラマ（物語）です。同じようなものを並べてみる「列挙」という方法もあります。「あ」のつくもの、あかいものはなあに、うちのかぞく…。終わり方（オチ）はちょっと考えてね。よいオチができたら、なんか「よい絵本になった」感じがします。

「製本」のしかたを知ったのもこの本から。他にもたくさんの「手づくり絵本の本」が出版されているかと思います。自分の、子どもの思い出等が絵本になるって、素敵ですよ！

こども向け
≪あそびの劇場≫「なぞときゲーム～こぐまちゃんを助けろ～」

夏に助けた「こぐまちゃん」にいったい何が起こったのか？中島児童会館とこぐま座のコラボ企画第2弾。君たちはこぐまちゃんを再び救い出せることはできるのか!!

日　時：2022 年 1 月 12 日（水）
13 時 30 分～ 15 時 30 分
参加料：無料　　定員：40 名
対　象：5 歳～小学生
申込開始日：2021 年 12 月 21 日（火）より
※お電話にてご予約ください。

幼児～小学生
「MA・SO・BO カーニバル」

日　時：2022 年 2 月 23 日（水・祝）
①午前の部　10 時 30 分～ 12 時 00 分
②午後の部　13 時 00 分～ 14 時 30 分
参加料：無料　　定員：各回 80 名
対　象：幼児親子～小学生
（小学生未満は保護者同伴）
申込開始日：2022 年 2 月 1 日（火）より
※お電話にてご予約ください。

幼児親子から小学生、だれでも楽しめるあそびのイベント。普段の児童会館ではできないあそびができるかも!!いろんなあそびに出会える。この日は、中島児童会館で思いっきりあそんじゃおう！

編集後記

勉強も大切、でも遊びもやっぱり大切なんだと感じる事が良くあります。毎年、冬になり雪が積もるとかまくらや滑り台を子どもたちと作ることがあります。しかし、遊びなれていない子は何から始めて良いのか分からず、指示があるまで動けません。そこで、完成予想と手順を伝えるとお友だちと話し合い、気が付けば適材適所でかまくらや滑り台が完成しています。遊びの中から役割を分担し、道具の使い方や危険を察知する能力が見出せる。子どもは風の子、外で遊ぶのは大事ですね。（川村）

【お問い合わせ・申し込み】
札幌市中島児童会館　TEL 011-511-3397
札幌市こども人形劇場こぐま座　TEL 011-512-6886
住所：札幌市中央区中島公園１－１
（地下鉄南北線中島公園駅下車３番出口より徒歩１分）

発行／札幌市中島児童会館・札幌市こども人形劇場こぐま座指定管理者／公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会